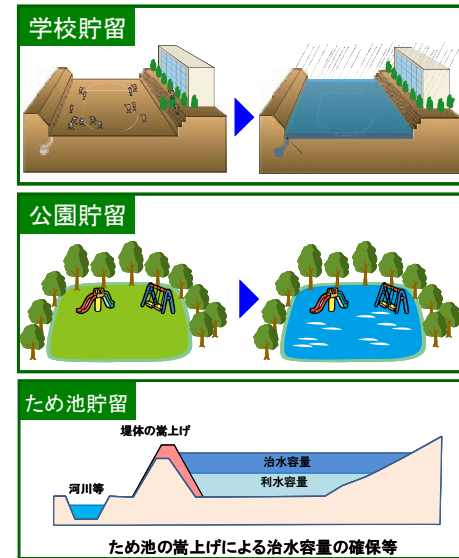


校庭貯留の施設整備について

1. 雨水を貯める流域対策について

近年、市街化の進展による流域の保水・貯水能力の低下や低平地への人口・資産が集積していることに加え、地球温暖化による集中豪雨が多発する傾向にあり、洪水被害の危険性が増している。

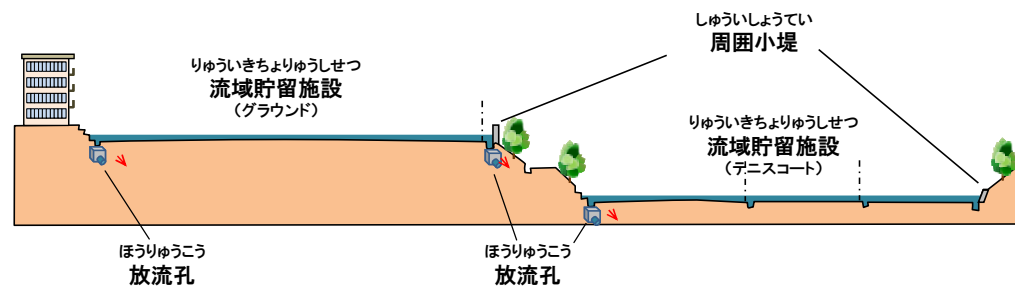
このため、これまで進めてきた河川下水道対策に加えて、学校の校庭・公園・ため池などに雨水を一時的に貯める流域対策を行い、流域からの流出量の抑制に取り組む。



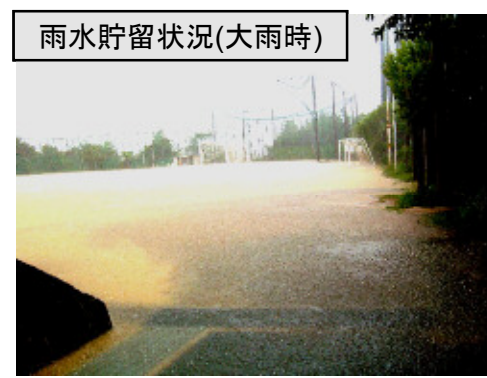
2. 学校貯留の概要

<雨水貯留及び流出の抑制>

グラウンドの周囲に小さな堤（周囲小堤）を設置し、また、放流孔の口を絞ることで敷地内やグラウンドに降った雨水を一時的に貯留して、下流への流出量を抑制する。



3. 大雨時の貯留状況



平成24年7月24日 時間34mmの大雨時の状況

県立宝塚東高校(大雨時に雨水を校庭に一時貯留)

4. 設計の考え方

(1) 貯留水深の設定

グラウンドでの最大貯留水深は50cmとする。

(2) 周囲小堤の設置

グラウンド周囲には雨水を一時貯留するため、周囲小堤を設置する。

(3) 放流孔（オリフィス）の設置

放流孔の口径は、計画降雨に対する貯留可能量や排水時間等を考慮して、大きさを設定する。

(4) 排水施設の整備

貯留した雨水を円滑に排水して、従前のグラウンド利用を確保するため、既存の排水系統を活用しつつ、必要に応じて側溝やグラウンド下の集水暗渠を増設するなど、排水施設の充実を図る。

(5) 余水吐の整備

計画以上の降雨が発生した場合に備え、満水となったグラウンドの貯留水を安全に放流する余水吐を設置する。

